



2020年1月7日

アウディ ジャパン株式会社
プレスサイト <http://www.audi-press.jp/>

お客様問い合わせ 0120-598-106
アウディコミュニケーションセンター

(ドイツ本国発表資料)

CES 2020 アウディ出展概要： スマートでパーソナルなモビリティを提案

- **AI:ME** ショーモデルは共感力を備えたモビリティパートナー
- **3D 複合現実ヘッドアップディスプレイとアウディ インテリジェンス エクスペリエンス**
- **単なる運転体験からアウディによるパーソナルな体験運転へ**

2020年1月6日、ラスベガス/インゴルシュタット：アウディは2020年のコンシューマーエレクトロニクスショー（CES）において、未来のビジョンを示したコンセプトカーから市販車に適用されるテクノロジーに至るまで、エキサイティングな展示を再び行います。この見本市において、アウディは未来のデジタル体験を定義します。CESは、家電製品の専門見本市として世界最大規模を誇り、未来のトレンドを知るための重要な場所と見なされています。CES2020は、2020年1月7日～10日にラスベガスで開催されます。

ドアを開け、シートに座り、都会のストレスから解放される。完全に自動化された Audi AI:ME は、ユーザーの希望やニーズを満たす、家庭と職場に次ぐ「第3の生活空間」としての役割を備えています。ユーザーは、アイトラッキング機能を使ってクルマとコミュニケーションを取ることができ、例えばお気に入りの食べ物を注文することも可能です。ウェルネス体験も提供され、車載 VR ゴーグルを装着すれば、壮大な山岳風景の中でバーチャルフライトを楽しむことができます。このテクノロジーは、実車の走行に合わせてバーチャルコンテンツを調整します。その結果、乗員は完全にリラックスして、忙しい日常生活から解放されることができます。目的地に到着すると、バーチャル映像は現実の映像に戻ります。Audi AI:ME は、ユーザーの好みと車両のナビゲーションデータに基づいてコーディネートを行いますので、注文した食べ物は時間通りに配達されます。CES 2020を訪れたメディアは、自動運転体験の一環として、この共感力を備えたモビリティパートナーを試乗することが可能です。

アウディ インテリジェンス エクスペリエンス：共感力を備えたクルマ

自分で考え、乗員に共感するクルマがあったら？「アウディ インテリジェンス エクスペリエンス」は、その答えを示してくれます。このクルマはユーザーとその習慣を理解し、人工知能とインテリジェント機能を組み合わせて、乗員の安全、健康、快適性を高めます。自己学習を行うナビゲーションシステムは、すでに現行の MMI システムに組み込まれています。システムは、目的地のデータを保存し、日付や時間、現在の交通状況を考慮しながら推奨ルートを提案します。将来的には、シートの位置、メディア、ルート案内、車内の温度から香りに至るまで、ユーザーの好む機能や設定に関する詳細な分析が行えるようになるでしょう。共感力を備えた未来のアウディは、短時間のうちにユーザーの好みを理解し、自動的にそれを適用できるようになります。必要に応じて、運転スタイルや体調をモニターすることで、ユーザーの状態をベースにした車両セッティングも行えるでしょう。CES 2020では、アウディ インテリジェンス エクスペリエンスのプロトタイプが備える基本機能を体験することができます。

2つのディスプレイ、2つのイノベーション：空間的ビジョンとオンデマンドによる提案

目的地が存在する横道を正確に指し示すナビゲーションの矢印。CES 2020の展示車に搭載される3D複合現実ヘッドアップディスプレイにより、これは現実のものとなります。CESで発表されるこの新技術は、サムスン電子と共同開発したものです。3Dテレビの場合と同様に、各画像について2つのビュー（左目用の1つのピクセルと右目用の隣接するピクセル）が生成されます。3D複合現実ヘッドアップディスプレイの画像は、ドライバーの前方8~10mの距離に浮かんでいるように見えます。巧みな表現方法により、この距離感は70m以上にまで変更することも可能です。それにより、遠くを見て走行しているときに、画像を見るために目の焦点を合わせ直す必要がなくなります。

さらなるハイライトは、オンデマンドで作動する透明なディスプレイです。スクリーンは縦15cm、横122cmのサイズで、下端はインストルメントパネルに埋め込まれています。これは、透明な有機ELディスプレイと、特に濃いブラックを表現する黒のレイヤーという2層構造になっています。情報の表示に必要な部分は透明なままになっていることが、このディスプレイの大きな特徴です。この部分は、透明なガラスと同様に、前方の路面をよく見渡すことができます。

自動車の未来は、完全な電動化とインテリジェントなコネクテッド機能が前提

これは空想の世界の出来事ではありません。現行のオーディオモデルは、最高のネットワーク性能を備えています。第三世代のモジュラーインフォテインメントプラットフォーム、MIB 3がその中心的な役割を果たします。メインプロセッサは、MIB 2と比較して10倍の処理速度を誇ります。これは、例えばルート計算や交通量予測などに際し、大きな利点となります。CES 2020では、ライティングテクノロジーの面でも最新のイノベーションを公開します。ドライバーが疲労を感じ始めたら、特別な光による対策が施されます。青みがかった涼しいホワイトのライトは、刺激と爽快感を得られる効果があります。オーディオのプロジェクトである「ヒューマンセントリック ライティング」は、例えば乗員の集中力や記憶力を高めるために、照明の色を活用できることを示しています。

CESのオーディオブースで展示される車両は、コンセプトカーの [Audi AI:ME](#)、12.3インチのタッチスクリーンを備えて市販車に近いショーモデルである [Audi Q4 e-tron concept](#) から、2020年春に搭載が開始されるデジタルマトリクスLEDヘッドライトを備えた [Audi e-tron Sportback](#) まで、多岐にわたります。

詳細情報は、オーディオメディアセンターから入手可能です：

<https://www.audi-mediacenter.com/en/ces-2020-exclusive-12281>

※本リリースは、AUDI AG 配信資料の翻訳版です。